

高品質温州みかん生産指針

月	1~3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生	発芽期			開花期			春梢自己摘心			1次生理落果			2次生理落果			果実肥大期			着色期									
育	生理・形態的花芽分化期						発根盛期			果汁集積開始						生理花芽分化期												

目標品質		L・M・S果生産の目安(mm)				
		8月1日	8月15日	9月1日	9月15日	
糖	極早生	7.0以上	8.8以上	10.0以上		
	早生		9.0以上	9.7以上	11.0以上	
	普通		8.5以上	9.1以上	10.0以上	11.0以上
酸	極早生	3.0以下	1.7以下	1.1以下		
	早生		2.8以下	1.6以下	1.0以下	
	普通		3.2以下	2.1以下	1.2以下	1.0以下

品質向上には樹体へのストレス付与が関係しています。ストレスには主に2種類があります。

着果ストレス … 樹上に果実を着果させることで付与されるストレスです。7月下旬から8月中旬頃までは着果負担をかけ、仕上げ摘果や樹上選果で適正葉果比に近づけ、収穫直前まで着果負担を掛けます。

水分ストレス … 乾燥状態になることで付与されるストレスです。マルチ敷設による水分管理で、樹へ与えるストレスの強さ・時期を調整します。

節水期(初期糖度向上) 水戻し期(減酸促進) 節水期(後期糖度向上)

着果負担、フィガロン散布でストレス付与(満開後50~110日頃)

タイベックマルチによる乾燥ストレス付与で糖度向上(果実肥大が緩慢化する恐れがあるので過乾燥に注意)

摘果・かん水(水戻し)による減酸促進(満開後100~130日頃) 葉の退色、萎れ、果実肥大緩慢でかん水

「ゆら早生」栽培面積拡大計画

和歌山県・JAグループ和歌山は、和歌山で生まれた品種「ゆら早生」の栽培面積拡大を進めています

「ゆら早生」は栽培技術の向上により、安定して高品質果実を生産することが出来るようになりました。

この品種は、市場評価も年々高くなっており、他の極早生と比べ販売単価が高くなっています。近年、他県産「ゆら早生」の生産量が増加しているため、さらなる生産拡大と他県に負けない高品質な果実を生産する必要があります。

※JAグループでは、ゆら早生栽培面積拡大に向け、苗木の確保に取り組んでいます。



マルチ敷設による品質向上の推進

近年の気象は、干ばつや多雨の発生が頻発し高品質果実の安定生産が難しくなっています

↓

高品質果実を安定的に生産するには**マルチが有効**です

特に水田転換園や水はけが悪い緩傾斜園地で効果を発揮します。

※新型コロナウイルス拡大の影響により、タイベックマルチ資材の入手が困難な状況です。また、JAグループでは現在、代替資材の試験を実施中です。

